

マザー先生の**実践英語講座**

For Communication

(教科書でよく使われている表現を斬る！)

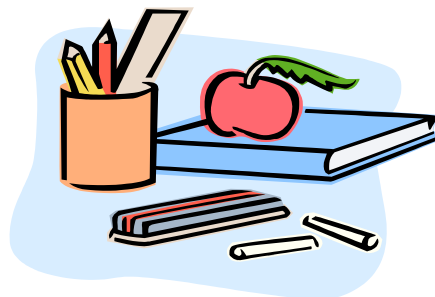
はじめに

実際に使われている英語と教科書の英語では、しばしば**大きなギャップ**があることを知っていますか？ 学校や塾の先生がそのギャップを説明してくださればいいのですが、私が知っている限りでは、そのようなことはほとんどないようです。

受験英語には**教科書の英語で十分**ですが、**実際に英語を使う**となると**教科書英語では恥**をかいたり、相手に不愉快な思いをさせたり、誤解させたりすることもあるでしょう。

ここでは、**助動詞を使って許可を求めるとき、依頼をするときの言い方**について述べます。

教科書の英語は英語のネイティブにはどのように聞こえるのか、実際の英語表現はどのようなのか知って欲しいです。



1 . 許可を求めるとき ... May I ~? Can I ~?

May I use your bathroom ?

トイレをお借りしてもいいですか。

May I ~? , Can I ~? は、多くの教科書英語では、よく許可を求めるときに使う表現とされている。

しかし英語圏ではcanは本来能力を問う表現で、Can I ~? は「私は~する能力がありますか？」と訊ねているととる人が少なくない。

例えば学校で先生に、“Can I go to the bathroom?”ときくと、

“I don't know if you can.

(私は君ができるかどうかなんて知らないよ。)

Did your parents teach you how?”

(あなたの両親は、どうするか教えなかったのかい?)

と言い返されたりする。

ネイティブでさえ正しく使いこなせない

May I ~? と Can I ~? をどのように使い分けたいのか。

このように使います

May I ~? ... 丁寧で、大人っぽい言い方。

目上の人に対して。

先生 生徒、上司 部下のように、目上の人に対して使う。

例) 生徒から先生へ

生徒 : May I go to the bathroom?

先生 : Sure .

相手に対してかなり遠慮がちな気持ちがあるとき。

No と言われる可能性が高いとき。

例えば、中学生には無縁^{むえん}だが、「ここでタバコをすっていいですか？」は May I ~ ? を使う。遠慮がちで、“Noと言われるかも”、という気持ちがある。

例) 自分から他人へ

A: Excuse me. May I smoke here?

B: I'm sorry, but you can't.

親しい友達以外には May I ~ ? を使った方が知的で、おとな。逆に親しい友達に May I ~ ? をつかうと「~してもよろしいでしょうかねえ~。」と聞こえ、かえっていやみになる。

例) 自分から友達へ

A: May I use your dictionary?

「君の辞書、使ってもよろしいでしょうかね。」

B: Yes, yes, you're the boss.

「はいはい、君にはさからえません。」

Can I ~ ? . . . ぐだけていて、少しこどもっぽい言い方。

親しい友達同士のあいだ。

ちょっと気軽な気持ちでお願いできそうなとき。

例) 自分から友達へ

A: Can I use your dictionary?

B: OK.

許可を求められたら、
「許可する」か「許可しない」かどちらかだよ

許可する

教科書によく出てくるのは、

Sure.

All right.

OK.

このほか、よく使われるのに、

Yes.

Of course.

That's all right.

Why not?

Yes, please.

Certainly.

許可しない

No. ダメです。

I'm sorry, but you can't.

I'm afraid you can't. すみませんが、だめです。

許可しなかったときには、理由を述べるのがマナーです。理由の述べ方は、このテキストの一番最後を参考にしてください。

2 . 依頼^{いらい}をするとき... Can you ~ ? Could you ~ ?
Will you ~ ? Would you ~ ?

Would you (please) open the window?

窓を開けてくださいますか？

物事を依頼する表現には、Can you ~? Could you ~? Will you ~?
Would you ~? があります。

“can could will would の順に丁寧になる” という人や、“will
would can could の順に丁寧になる” という人がいて混乱してしま
いますが、本当はそれぞれニュアンスがちがいます。

基本的には、

can は相手が「~してくれるかどうか」という能力や都合を、
will は相手が「~する意思があるかどうか」という意思を

聞いています。

それぞれの丁寧表現が、Could, Would です。

Can you ~ ?

教科書によくある Can you ~ ? は、「~できる?」という、相手がして
くれるかどうか「都合」をたずねるとてもカジュアルな表現。

しかし、ときには「あなたに~する能力がありますか?」と聞いてとる人もい
るので、目上の人に対しては使わないようにしましょう。友達同士のあいだ
だけの表現です。

例) 友達同士の間で

A: Can you come here again tomorrow?

「明日またここに来れる？」

B: Yep. No problem.

「いいよ。おやすいご用。」

Yep...Yes のくだけた言い方。日常会話では Yes よりよく使われる。

Could you ~ ?

could は can の過去形だが、**過去形で聞くこと**で、「もしできれば。」という**遠慮の気持ち**が含まれる**丁寧な表現**。Could you please ~ ? Could you ~ , please? とすると**もっと丁寧**になります。

例) 友達以外の間で

A: Could you (please) come here again tomorrow?

(Could you come here again tomorrow, please?)

「明日またここに来ていただけますか？」

B: Sure.

「いいですよ。」

Will you ~ ?

Will you ~? という表現は、**これからの予定を聞く意味**と**依頼をする意味**の2つがあるが、**予定か依頼かの意味の取り方は、会話がなされている状況**によって意味を判断します。

しかし**実際の会話では、依頼の意味の Will you ~? はほとんど使われません**。従って、この依頼の意味での Will you ~ ? を扱っている教科書と扱っていない教科書があります。また**予定を聞く意味では、Will you ~ ? と Will you be ing ~ ? を使い分けている人も多い**ようです。

Will you ~ ? と Will you be ing ~ ? の使い分けについては別テキストで。

なぜ依頼の意味の Will you ~ ? が使われないかという、これを直訳すると、「あなたに ~ する意思がありますか？」と遠慮もなしに直接きいている表現だからです。人によっては強制に近い表現ととる人もいますので、使うとしたら、ごく親しい友達同士の間のみです。

例) 友達同士の間で

A: Will you open the window while you're at it?

「ついでに、窓あけてくれない？」

while you're at it ... ついでに

B: All right.

Would you ~ ?

Would は Will の過去形だが、過去形で聞くことで、「もしあなたに ~ する意思があるなら」という遠慮の気持ちが含まれる丁寧な表現。

Could you please ~ ? と同じく、Would you please ~ ?

Would you ~, please ? ときくと、もっと丁寧^{ていねい}になります。

例) 友達以外の間で

A: Would you (please) open the window?

Would you open the window, please?

「窓を開けてくれませんか？（くださいませんか？）」

B: Sure.

引き受ける

教科書によく出てくるのは、

Sure.

OK.

All right.

このほかによく使われるのは、

Yes.

はい。

I'd be glad to.

喜んで。

Certainly.

No problem.

おやすいご用だよ。

Nothing to it.

Piece of cake.

断る

No.

いいえ。

I'm sorry, but I can't.

すみませんが、できません。

I'd like to, but I can't.

やってあげたいのですが、できません。

I wish I could.

できればいいのですが。

No way!

だめ!

依頼を断ったら、理由を述べるのがマナーですし、相手も納得しますよね。それは日本語と同じです。下の会話文のように、**because** を使って**理由**を言いましょう。

A: Would you read this letter for me?

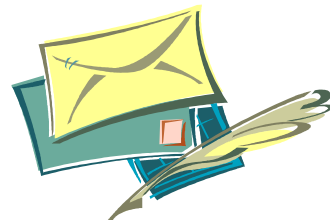
B: I'm sorry I can't, **because I have to go now.**

「ごめん、できないよ。今行かなきゃならないから。」

I'll do later. OK?

「後でやるけど、それでいい？」

A: OK. Thanks.

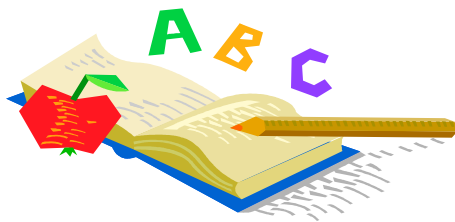


have to ~...~しなければならない

おわりに

いかがでしたか？ 教科書とのギャップを感じてもらえ
ましたか？

教科書は基本で大切なのですが、実際の英語も学んで誤解
のないコミュニケーションをとれるようにしましょうね。



マザー先生